

## JFA トレセン山口スタッフ研修会

2017. 6. 18

FA・地区トレセン活動の一層の充実に向けて、従来1月下旬に行われていた本研修会を、NTC（ナショナルトレセン）のコンセプトをFAで年間を通じて落とし込みを図る、という目的で、本年度は6月18日（日）に山口県立おのだサッカー交流公園で開催しました。

各カテゴリーが既に年間計画を確定している中で、急なお願いにもかかわらず、トレセンスタッフ・FAインストラクター合わせて約30名に参加していただきました。

ナショナルトレセンコーチの望月一頼氏の御指導で、午前中は、本研修会の目的や、韓国で行われたU20W杯の映像を観ながら現在のトレンドについて話していただいた後、本年度のNTCU14のトレーニングメニューを実際に体験してもらう実技を行いました。



攻撃のトレーニングでは、インテンシティ（運動強度）を確保しながら、タイミングやパススピードなど「質」を高めるためのオーガナイズなど、大変参考になりました。また、落とし込みの順序、積み上げの順番の大切さなどを再認識しました。

守備のトレーニングは、攻守が切り替わる中で、ボール保持者とボールの状況から守備の判断をすることを重視した内容でした。また、「ボールを奪う」といういわばサッカーの本質、本能に働きかける Daily

Training もあり、「これは早速チームで取り組んでみよう」と言われる指導者もおられました。

トレーニング全体をみると、

①選手には「止める」「蹴る」「運ぶ」をいかなる状況下（走ったり、プレッシャーがかかっていたり）でも状況判断に応じて正確にできる「質の高さ」を要求していること。

②指導者は、選手に「判断させる」ことを要求していき、選手のプレーを常にジャッジし続けること。

が望月氏の言葉の端々から感じられました。

午後は近隣のクラブチームの選手にお願いして、本年度本県からA級、B級コーチ養成講習会を受講される4名の指導者に、指導実践のトレーニングを兼ねて午前のトレーニングを指導実践していただきながら、ディスカッションをするという形で行いました。U14の選手では、内容理解や技術に指導者とは差があるため、指導実践者にとっては少し難しい状況だったとは思いますが、逆に選手にどう落とし込むのか、トレーニングを理解し始めたときの選手の変容など、観ている指導者の方にはよいシミュレーションになったのではないのでしょうか。トレーニング中にも、望月氏に積極的に話を伺う指導者もおられるなど、受講生の学ぶ姿勢に望月氏も感心しておられました。受講されたトレセンスタッフにおかれましては、今回の講習会で得た情報やコーチングのポイントなどを、各カテゴリートレセンで共有していただきますようお願いいたします。



アセスメントでは「U14対象のトレーニングではあったが、U12でも大切な要素がたくさんあり、大変参考になる内容であった」「実際にプレーして気づくことが多々あった」「JFAが進める内容で、子供たちのアクション・反応・改善が見られた」などよい意見をたくさんいただきました。また、「年度後半より前半にあるのはよい」「全カテゴリーの指導者が1名でも多く参加できるように願う」など、今後の研修会に向けた示唆も多くいただきました。

技術委員会では、来年度以降も各種別と調整を図っていきながら、春に本研修を開催したいと考えております。

最後に本研修会にご協力いただいたクレフィオ山口FCの選手に感謝いたします。ありがとうございました。

（文責 技術委員長）